

学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例（令和6年度版）

学校名	指宿市立川尻小学校	児童生徒数	31人
-----	-----------	-------	-----

○ 令和5年度 振り返りの実際

成果
<ul style="list-style-type: none"> ○ 書いたものを友達同士で賞賛し合うことで、本時の学習に対する満足感や達成感を味わい、次時の学習への関心・意欲が高まった。 ○ 記述を続けることで、教師は子供一人一人の学習意識や理解度を把握し、個別指導や次時の授業へと生かすことができた。また、その積み重ねが学力向上につながった。 ○ 自分の考えや思いを文章に書く機会となり、表現力の育成につながった。
課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 振り返りの記入に時間がかかったり、時間確保ができなかったりしたことがあった。 ● 書くスピードや内容に個人差が大きくあり、意見交換できないことがあった。

○ 令和6年度 振り返りの実際

改善策
<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の終末で3分間は確保できるようにする。 (2) 意見を集約しやすいようにタブレットを活用する。 (3) 振り返りの視点「わ・で・か・い・も」を意識し、取り組みやすくする。
成果等
<p>【ノートへの記述(3年国語)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ワークシートを作成 ② 「わ・で・か・い・も」の視点を選択 ③ 振り返りを記入 <p>毎時間取り組むことでルーティン化され、短時間でできるようになった。また、本単元で学習した内容を視覚的に振り返りやすく、見通しももてるようになった。</p> <p>【ロイロノートの活用(3年社会)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ロイロノートで作成したワークシートを配信 ② 「わ・で・か・い・も」の視点を選択 ③ 振り返りを入力(授業の感想も加えて良い) ④ 指定された箱に提出 <p>鉛筆を使って文章を書くことが苦手でもタブレットなら書くことができる子供もいるため、どの子供も意欲的に取り組んでいた。系統性を考慮し、ローマ字入力でも、タッチペンを使っての入力でも可とした。</p>

